

12 償却資産申告時のポイントについて

ア) 大型特殊自動車の償却資産申告について

A) 農耕作業用以外のもの

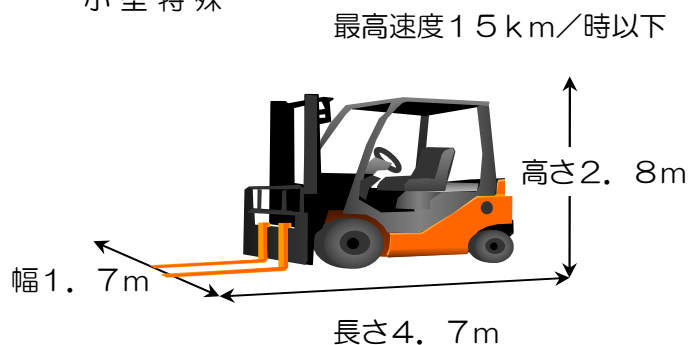
償却資産として申告をする必要がある農耕作業用以外の『大型特殊自動車』とは、下記のイラスト左図に挙げるものとなります。(道路運送車両法上の分類による)

したがって、イラスト右図に示すように特殊自動車のなかには償却資産の申告を要しない、『小型特殊自動車』に分類されるものがございますのでくれぐれも御注意ください。

大型特殊



小型特殊



- ① 長さが4.7mを超えている
- ② 幅が1.7mを超えている
- ③ 高さが2.8mを超えている
- ④ 最高速度が15km/時を超えている

①から④のいずれかに該当する

⇒『大型特殊自動車』として償却資産の申告が必要です。

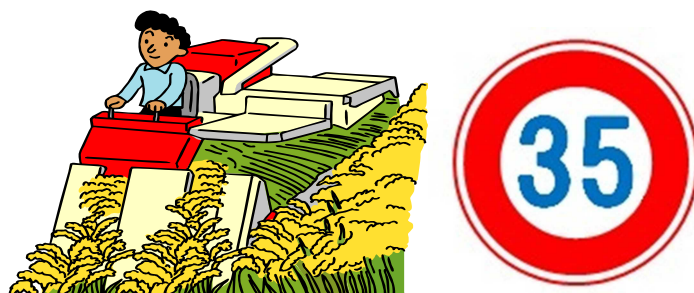
- ①' 長さが4.7m以下である
- ②' 幅が1.7m以下である
- ③' 高さが2.8m以下である
- ④' 最高速度が15km/時以下である

①' から④' をすべて満たしている

⇒『小型特殊自動車』となるため償却資産の申告は不要ですが、軽自動車税種別割の申告が必要です。

B) 農耕作業用のもの

田植機やコンバイン等の農耕作業用特殊自動車は最高速度が35km/時未満のものであれば『小型特殊自動車』となります。



なお、小型特殊自動車は、公道を走行する・しないに関わらず軽自動車税種別割の課税対象となるため、申告によりナンバープレート（緑色）を取得し取り付ける必要があります。

上記の小型特殊自動車を新規に取得した場合は、下記の税制課諸税係（総合庁舎3階 税2番窓口）まで御連絡ください。

（問合せ先）旭川市役所 代表 0166-26-1111

- ・固定資産税（償却資産）に関する事 資産税課 償却資産係（内線 3369・3379）25-5904（直通）
- ・軽自動車税種別割に関する事 税制課 諸税係（内線 3313・3314）

イ) 事業用資産として物置等を取得した場合

事業用として取得した資産のうち、物置、ガレージ、車庫、プレハブ、倉庫や事務室など（以下「物置等」とする）については、その規模や施工方法によって固定資産税上の取り扱いが償却資産にならない場合があります。

◎取得した物置等が「償却資産」となる判断例

A) 取得した「物置等」が、

- ① 屋根及び周壁またはこれらに類するものを有しており外気から遮断された屋内がある。
- ② その目的とする用途に供しうる状態にあること。（例 物置ならば荷物の保管に供しうる状態にあること、車庫・ガレージなどならば乗用車の保管場所としうる状態にあること等をさす。）

B) その物置等には基礎が、

ない

C) その物置等の床面積は？

概ね3坪
(10㎡)
以下である

ある

概ね3坪(10㎡)
を超える

固定資産税の「家屋」に該当する可能性がありますので、固定資産税納税通知書（土地・家屋）の課税明細書に記載がない場合は、資産税課（家屋係：0166-25-9752【直通】）に御連絡願います。

この物置等は、償却資産としての申告が必要です。

ただし、カーポートと一体となった物置は、床面積が10㎡以下であっても、物置部分は「家屋」として固定資産税が課税される場合があります。

上記のチャートは、取得した対象物が償却資産か家屋かを判断するためのあくまで目安であり実際の状況確認のために職員が実地調査に伺う場合があります。